

グループディスカッションに取り組む学生たち=9月29日



「伝わる力」養成講座

コミュニケーション力磨く

就職活動や就職後に求められるコミュニケーション力を身につけると、就職課による「伝わる力」養成講座が8、9月の3日間、サテライトキャンパスで開催された。キャリアの橋合能理子さんが講師を務め、相手の理解を得られる伝え方・話し方、ディスカッションのポイントなどを指南した。

3日間集中講座のうち台風で延期になった最終回を9月29日に実施。3年次生10人が参加した。この日のテーマはグループディスカッション。

「ほとんどの企業の採用でグループディスカッションを行うのは、協調性など学生の素顔が分かるから。就職活動では避け

3年次生向け就職ガイダンス開催



早期化予想 十分な準備を

3年次生を対象とした就職ガイダンスが開催された。後期授業初日の9月21日に神田キャンパスで行われた法学部を皮切りに、24、28日には生田キャンパスで学部別に第1回就職ガイダンスを実施。就職活動への準備や注意点などを就職課の職員が学生に伝えた。

法学部のガイダンスでは、職員が今夏のインターンシップの参加について、さまざまな情報が提供された法学部のガイダンス

2019年3月卒業予定者の大学求人倍率(リクルートワークス研究所調べ)は1.88倍。「売り手市場」に見えるが、従業員数3000人未満が9.91倍、5000人以上の大企業は0.37倍と規模によって大きく異なる」と、広い視野で企業

「18年度よりもさらに早期化が予想されるため、準備に取りかかる必要がある」として、来年3月の採用広報活動解禁に向けた取り組みの重要性を指摘。「売り手市場だからと楽観視しないで、十分に準備した状態で3月を迎えられるように」と強調した。

永原健人さん(法3)は「これまでゼミやサークル活動で培ってきたことを自分の長所としてどう発信するか、これからさまざまな就職支援プログラムに参加し、考えていきたい」と話した。

10~12月開催の就職支援プログラム(抜粋)

講座名	日時	
基礎講座	自己分析・自己理解	10/17、18、25 <5時限> 10/16、19 <5時限>
	動画で体験! 面接のイロハ	10/23、29 <5時限> 10/31、11/5 <5時限>
	How to 企業研究	11/14~12/13 <5時限>計8回 11/13~12/12 <5、6時限>計8回
	モノづくり企業 職種研究セミナー	11/13 <16:35~18:35> ※1月にも開催 11/22 <16:35~18:35> ※1月にも開催
	SPI試験対策講座	【基礎】11/8~12/6 (毎週月・木曜日) <5時限> 【応用】11/6~12/7 (毎週火・金曜日) <5時限> 【総合】11/6~12/7 (毎週火・金曜日) <1時限>
実践講座	文章力養成講座	①11/19、12/4<5時限>②11/27、12/12<5時限> ③12/10 <5、6時限> ※1月にも開催
	学内OB・OG相談会	12/18 <19:00~20:30> ※神田は2月開催
	しごとトーク! カフェ	10~12月の平日 <18:30~20:00>
	企業研究講座	12/17~21 <5時限> ※2月にも開催 12/10~14 <5時限> ※2月にも開催
	就職合宿研修会	①12/1~2②12/15~16 ※場所: 幕張国際研修センター。1泊2日

※日時の赤字が生田キャンパス(サテライトキャンパス含む)、青字が神田キャンパス。教室、詳細はポータルからS-netで確認してください。

「通れない」と橋合さん。学生は、客観的、否定的、俯瞰など六つの思考法を意識しながら、グループディスカッションを実践した。「SNSに規制などについてチームに分かれて討論。思考法が偏っていないか、他者の意見を聞きながら自分の意見をもとめているかなど互いに評価し合った。

就職課から

「4年次生へ」学生生活の集大成となるべく学業や課外活動に尽力していること、就職活動を継続する中で、求

自分で考える癖をつけよう」と指導した。



岡部 玲子 文学部准教授

海外に滞在する機会がある時には、現地の言葉を少しでも覚えてから行こうと、小さな辞書と日常的な言い回しが載っている会話集を手に入れることにしている。ハードルが高かったのはギリシャ語である。それでもテッサロニキに滞在した際、会話集で学んだあいさつや質問をスーパーで使ってみた。店員の反応から「これは通じた!」と確信した瞬間、ものすごい勢いでギリシャ語が返ってきたのである。そうなるのもう英語にしてみようしかない。でも「通じた」と感じられるのはうれしい瞬間で、また懲りずに別の国で同じことを試してみるのである。

英語ができればたいがい、どの国に行っても困ることはないし、意思疎通はできる。英語の母語話者と日常的に英語を使っている話者を合わせると十



数億人になると言われる。でも、英語さえできれば世界中の人たちの社会や文化や考え方が理解できる、というのはとても傲慢で危険な考えだと思う。もちろん短期間で少しか現地の言葉を使ったり、その国や人々を知るなどできるわけがない。それでも英語以外の言葉を使ってみたり、メニューを解説してみたり、その土地の言葉に耳を傾けてみたりする、そんな姿勢が大事なのではないか。

言葉は人間だけが持つ能力であり、人間を人間らしくさせているものである。英語はもちろん、言葉そのものに意識的になり大切に楽しむことで、もう少し勉強してみようかなという気持ちになるのではないかと。時には言葉に翻弄されてみるのもアリかもしれない。(担当は英語学特殊講義) ※短縮版。全文はCALL教室ホームページで。

言葉との付き合い方

合宿研修会では、それまでに行ってきた就職準備の総仕上げをします。参加した学生からの満足度してください。

課程博士論文 5作を出版

2017年度課程博士論文刊行助成により、次の5作が出版された。写真、氏名、学位名に続き、著書名。いずれも専修大学出版局刊。(敬称略)

西原利昭、博士(商学) 『統合報告におけるイン

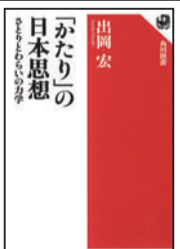
・ガバナンスの観点から』2600円+税▽梅田由、博士(商学) 『企業価値創造のためのイン

・タンシブルズ・マネジメント』2600円+税▽小森田龍生、博士(社会学) 『過労自死の社会学』その原因条件と発生メカニズム』前号紹介。



専修人の新しい本

「かたりの」日本思想



出岡宏著

「芸能や詩歌は日本人の思想なのである」「(まえがきより)」。著者は日本人の生き方を、芸能を通して、面白く、粋なものとして語れないか、本書で試みている。

執筆にあたり、著者は大学生やゼミ生に向けた講義をイメージした。日ごろ、教室で行っている工夫が随所に反映されており、映画や落語など、さまざまな物語を引き合いに出しながら話を展開。読み手を飽きさせない。(角川選書・本体1700円+税)。

著者(いずおか・ひろし) 文学部教授。日本思想史。

日本の鉄道



野口武悟編

鉄道趣味初心者からマニア・コレクターまで

これまでも鉄道についての事典や図鑑といった事実解説タイプのツールは数多く編まれてきた。しかし、本書は、事項解説を載せつつも、案内指示タイプのツールとして編まれた。つまり、鉄道について書かれた主要な図書を網羅した書誌である。

鉄道初心者向けから上級者向けまでの図書5410冊の書誌情報を収めている。鉄道を知る旅への出発点として本書を利用してほしい。知のナビ事典。(日外アソシエーツ・本体9550円+税) 編者(のぐち・たけのり) 文学部教授、図書館学。